

# 成人 SEIJIN

特集

旭日分会總會レポート

# 巻頭言

---

皆様、あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、最初の『成人』を発行させていただきました。いつも熱心に読んでくださり、ありがとうございます。今年も年4回の発行を目指し、良いと思うモノを作っていきます。昨年と同様、青年会旭日分会に関心を持って頂けると幸いです。

新しい年を迎えたということで私ごとで恐縮ではありますが、今年目標を綴りたいと思います。今年目標は「日々、心を澄ますことを心がけていきたい」です。

いくら人から称される素晴らしい活動や実践をしていても、日常生活で腹を立てたり、不足をしたりしては、全く意味がないと言えると思います。

「〇〇を始める」「毎日〇〇を実践します」というような実践目標や心定めは尊いですし、もちろん私も定めますが、極端な例を言えば「毎日腹を立てません」という心の目標がより難しいと感じています。

私は短気な方なので、相当意識しないと「はらだち」のほこりを積んでしまいます。そういう意味で、自分の心遣いや言動に矢印を向けて心を澄ます毎日を大切に積み重ねていきたいです。

皆様の今年の目標はどんな感じですか。

今年の青年会旭日分会はそれぞれの信仰心を培うために「問い」と「対話」を重視して活動していきます。

「普段天理教の話はできないけど、ここではそんな話が自然と出来て心地よい」そんな場を作っていきます。

今後も『成人』やLINE公式『旭日若人通信』でどんどん情報を発信していきますので、是非自らの信仰を培うために活用してください。

旭日大教会創立130周年とその先の教祖140年祭に向かう旬に、旭日につながる仲間と少しでも成長できるよう、まず自ら心澄ます努力をして、心明るく勇んでいきたいと思ひます。

本年もよろしくお願ひいたします。

青年会旭日分会委員長  
庄司雅則

## 初めて旭日分会委員として参加した青年会総会

松田 和夫

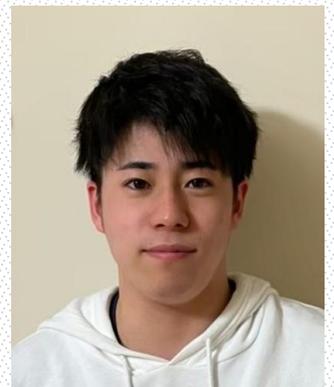
今回初めて青年会旭日分会総会に委員として参加させていただいた。総会では、おつとめまなびでの役割の他に、開会の辞もつとめさせていただくことができ、ものすごく貴重な経験をさせていただけた。おつとめまなびでは、小学生の頃からしばらくやっていなかったすり鉢をつとめた。皆が心を揃えて一手一つにおつとめをつとめるとなんだか心が洗われるような感覚を持ち、やはりおつとめはすごいなと感じた。開会の辞では、すごく緊張し、果たして自分でいいのだろうかとも考えたが、松田道和さんが「大丈夫」と言葉をかけていただけたことで堂々と開会の辞を行うことができた。

記念講演では「天理教青年会の未来予想図」というテーマで青年会本部委員の番正道人委員（双名島分会）のお話を拝聴した。私がこの講演で最も心に残ったのは、「あなたに神様に出会い、自由な心になって誰かのヒーローになる」という言葉だ。番正先生がおたすけを行うのはにおいがけや路傍講演、訪問して天理教についての話をすることだけではなく、各々がなんでも良いから誰かが助かることをすれば良いとおっしゃっていた。私自身も天理教の教会で生まれ、小さい頃から路傍講演などを見て育ってきたので、どうしてもにおいがけや路傍講演などがおたすけになると考えていたが、その考えが良い意味でぶち壊された。

また、番正先生はこのおたすけ実現に3つのステップがあるとされた。それは、問う→挑む→創るという3ステップである。問うというステップは、思考を止めない・理解をすることは実践を伴う・問いの先の感動があることとおっしゃっていた。そして、挑むというステップは、今しかできない・対話が生まれる・神様に継る体験であることとおっしゃっていた。

実際、今この感想を書いている日に私の友人がコロナの陽性になってしまった。私は私なりにできることを考え、外に出られない友人のために食料品や日用品の買い出しなどを行い、本部の方向を向いて彼のたすかりを願った。今まで自分にはおたすけという行為がすごく難易度が高いものと考えていたが、番正先生の言葉を受けておたすけを身近に感じる事ができた。今回の経験を通しておたすけの喜びを少し感じられたので、これからも自分なりにおたすけの実践をしていきたい。

松田 和夫（まつだかずお） 22歳  
櫛高分教会子弟  
静岡大学法学部卒業  
趣味はスポーツ観戦（バスケット、野球）  
好きな食べ物はラーメン



## 青年会を通して感じたこと実行したいこと

荻原謙太

「与えられた事に対して疑問を持つ」そんな言葉に心を打たれた。立教185年11月27日「第72回天理教青年会旭日分会総会」の中で語られたこの言葉によって、今までの私の考えや感性が少し良い方向へ変わった気がする。私はおてふりを「ダンス」、扇を「うちわ」と呼ぶほど天理教についての知識が浅はかである。そんな私は現在、修養科で修養させていただいて約1ヶ月が経とうとしている。今回は、修養科で修養中の私が青年会総会を通して感じた事を、私と同じ天理教を知らない方に届くといいなと思いつらさせていただきます。

今回の青年会のプログラムは、おつとめまなび、式典、記念講演、講演を踏まえた意見交換という流れだった。特に、私は記念講演から得られたものや心を動かされることが多かった。記念講演では主に「問う・挑む・つくる」の3つから構成されており、私は1つ目の「問う」に出てきた「与えられた事に対して疑問を持つ」という言葉に心を打たれた。これは天理教に関わらず物事に対して疑問を持つからこそ行動が起き、その課題にチャレンジしてやっと答えが見えてくるのだと私は感じた。最初から疑問を持たずに行動をしなければ何も始まらない。理解には実践を伴うと学ばせていただいた。天理教を何も知らない私の天理教のイメージは「人助けをする・人の役に立つ」である。何も知らない私でもこの考えはとても好きで、生きる上で1つの参考にさせていただいている。しかし、参考程度で自分が実践できているかと問われると、できていない。今回の講演の内容から考えれば、それはきっと「なぜ人を助けなければいけないのか？なぜ人の役に立たなければいけないのか？」に対する自分自身の回答がないからだと感じた。

そこでふと思いついた出来事がある。それは、以前私より年下の男の子と交わした会話である。その男の子とは日常的な会話をする程度で、胸の内を明かす程の関係ではなかったが、ある日彼から過去の壮絶な体験、そこから起きる身上について話を聞かせてくれた。詳細はここには綴れないが、その時の私は話を聞くだけで衝撃のあまり何も彼に寄り添った応答を何一つしてあげられなかった。こんなに苦しんでいるのに何も助けてあげられない、その日は何故か自分の浅い経験などを悔やみ眠れなかった。

彼はその辛い過去に立ち向かおうと本来伝えづらい過去を他人に伝え、今の生き方へ疑問を持ち、彼自身の何かきっかけを掴もうと行動をしていたと思う。そうやって苦しんで何か答えを導き出そうと行動を起こしている彼を思い、そして考えると自分が情けなく感じてしまった。そんな出来事があった。

幸いにも私は過去に辛い経験や大きな病気や怪我をした事がない。そして、そのような身上や事情を抱えた人に出会う事が無かった。そういった経験をしていないからこそ何も言葉が出なかったのであろう。私は今まで何をしていたのだろうか？なぜ頭の中で人助けをしたいと思っても行

動をしなかったのだろうか?しかし、今日その答えが正解かどうかは分からないが気付けたかもしれない。それは「これだけ体も心も元気なのだから困っている人を助けるのは当たり前!」ということである。一見すると薄っぺらい答えのように聞こえるかもしれない。

なぜこういう考えに至ったかといえば、自分が現在の修養科生活の中で多くの身上、事情を抱える方を見る機会が増えて自分の健康は当たり前ではないと日々感じるようになったからである。自分が健康でいられるのも多くの方に守られているからであるとも心から感じられるようになった。自分も守られているから、自分も人を守る。助けられて生きているから、自分も人を助ける。この思考の連鎖が、人間同士が共に寄り添う世界を実現させるのだと思う。自分は元気な体を貸し与えていただいているからこそ、人を助けることに自分の体を精一杯使わせていただきたいと思う。また、人の幸せは私のものさしで測るのではなく、各々が求める幸せがあり、それに寄り添ってあげる事が最高の人助けだ。

最後に、私は将来水泳の指導者になるべく来年度から大学院に進学し研究をさせていただく。これからは多くの学生に出会い指導をして共に成長していきたい。今回得られた、人と寄り添う重要性や、自分が助けられているから人を助けるという連鎖は多くの人に伝えたい。まだ天理教の教えに絡めて伝える事は私にとってはハードルが高いが、人との助け合いの心遣いは伝えられる。それによって救われる学生もいるかもしれない。私はその心の側面も伝えられる指導者になりたいし、それを私が伝える事によって今後の世界がそういった気持ちの人を増やせるチャンスだと思う。より良い世界にするチャンスだ。天理教を絡めて伝える事が難しければ自分の特性を活かし、その特性を媒体として大切な心遣いを伝えられたら良いと思う。私は今後水泳を媒体として伝えていきたい。

人助けをしたいという理由に、正解はないかもしれない。今後、多くの出会いや勉強によって思考は変わっていくだろう。その思考を時代や場合に合わせ良い方向へとアップデートができるよう精一杯生きていきたいと思う。そういった意味では、人助けをする理由の完璧な答えを探すことを目的にしない方が何かもっと大切なものを感じ取れると思う。

きっと、この思考にたどり着いたのも答えを見つけようと「考える」という行動をしたから導かれたのだろう。

荻原 謙太 (おぎはら けんた) 23歳  
菊山分教会所属  
神奈川大学人間科学部卒業  
趣味は散歩  
好きな食べ物はカレー



# 第72回青年会旭日分会総会 フォトダイジェスト



ぜひ、友達登録してください



# 天理教青年会 LINE 公式アカウント



QRコードからも登録できます。

イベントなどの情報を  
配信しています。  
ぜひ友達登録をして、お得な情報を  
ゲットしてください!!

LINE公式アカウント！旭日の若人の活動を続々配信中！

『旭日若人通信』



ご登録はこちらのQRコードから⇒